

## 会 議 録

会議の名称	令和2年度第2回富士見市社会教育委員会議
開催日時	令和2年9月2日（水）午後7時00分～8時15分
開催場所	中央図書館 視聴覚ホール
出席者	搦木道代議長、吉田廣子委員、荒川照子委員、京谷恵子委員、佐々木眞理子委員、古澤立巳委員、吉田徹子委員、蘇武伸吾委員、堀川博基委員、米山隆二委員 事務局
欠席者	なし
公開・非公開	公開（傍聴人 0人）
会議次第	1 協議事項 ・地域子ども教室について
会議資料	定期刊行物
会議録確認	搦木道代議長

## 会議内容

### 1. 開会

○議長あいさつ

### 2. 協議事項

**【議長】** 前回の会議で、なぜ地域子ども教室を社会教育委員会議でテーマとするのか質問があった。事務局とも打ち合わせたが、他の組織からのアドバイス・アイデアを出すことも重要という事で扱う。地域子ども教室について詳しくは知らない組織であるが、事務局や担当職員も交えて意見を出し合い、よりよい子ども教室の形を提案していけたらよい。最終的には提言書という形でまとめられるよう目指す。富士見市の子ども教室で課題として挙げられているのは、いずれも「大人の問題」である。しかし、そこばかりに焦点を当てていると議論が煮詰まってしまう。その地域に住んでいる子どもの目線に戻って、子ども教室に行ったら子供が楽しく遊んで帰ってもらえるように、子どものためになるような意見を出していければと思う。今後のスケジュールについて確認であるが、基本的には毎月会議を開催していく予定である。コロナ対策のため、なるべく会議は短時間で、あとは宿題という形で対応していく。富士見市の子ども教室について、子どもたちの目線を最優先に話し合いを進めていけたらと思う。事務局との打ち合わせの際、子どもたちは放課後なにをしているのかふと気になった。塾に行く子、放課後児童クラブに行く子、どちらにもいかない子。どちらにもいかない子は、公民館に行ったり家でゲームをしたり、多種多様ではあると思うが、選択肢の一つとして地域子ども教室という居場所を提供してあげられればと思う。遊ぶ場所を作ったからと言って子どもが必ず来るというわけでもないが、成功例等を紹介していけたらと思う。では、配布資料について事務局より説明を。

事務局より、事前配布資料について説明。

**【議長】** 今期は2回宿題を課す。1回目は各教室の共通課題について。2回目は成功例や他の地域でうまくいっている例、各教室の課題について。一つ目の大きな主な課題は、事前資料で挙げられている。PTA などこの組織でも共通の課題ではあるが、なにか成功事例があるかもしれないので、各自考えてきてもらえれば。

**【委員】** 事前資料を読んだうえで私も資料を作成してきた。地域子ども教室は過渡期という印象がある。立ち上げ当初はねらいが違った。子どもたちの居場所がない、子どもたちがキレる、ゲームの世界に入り込んでしまうといったような兆しが見られた。例えばテレビゲーム機が販売されて、夜中に並んで買っているような時代で、子どもたちは将来どうなってしまうんだろうという不安があった。今もゲームはしているが、お金をかけていない。その場でダウンロードして遊んでいるし、保護者も「スマホ育児」と俗にいうが、スマホを見ていることに罪悪感を抱かなくなっている。世の

中が大きく変わってきていると認識する必要がある。洗濯用洗剤の売れ筋をみると面白い。今は「部屋干し」や「除菌」など、防臭を謳ったものが殆ど。しかし昔は「まっしろ」「輝き」など、汚れを落とすことを大きく謳った商品が売れていた。どういうことかということ、今の子どもたちはほとんど服を汚さない。今の親は、子どもがずっとスマホを見ていても注意しない。しかし、洋服を泥だらけに汚すと怒る。このように、バーチャルという見えない世界に子どもたちの居場所を追いやってしまっている世の中だと感じる。子ども教室は実体験を伴っており、子どもたちにとってはとても大事なこと。とてもいい事業であると思う。取組形態については、現状からあまり大きく変える必要はないと思う。ただその意義について、スタッフの皆さんの認識のずれによりモチベーションが低下してしまっているのではと思う。加えて周知が不足しており、保護者等の理解不足という問題を招いてしまっている。取組自体については連絡協議会の方で調整するものかと思うが、周知の仕方などについてはこの社会教育委員会議で話し合えればと思う。実体験を伴う活動は、自分と違う考えを持った人がいるという当たり前のことを理解する貴重な場。そういう場として、子ども教室は本当に価値がある。そういった点をアピールしていければよい周知となるのではないか。

**【議長】** 何事も体験することは大切。今の子ども達はそういった「体験」の機会が減っている。さまざまな体験が積めるという点は、子ども教室の大きなメリットだと思う。そういった意味でも、子ども教室のあり方は重要なところ。子どもに参加したいと思ってもらえるような魅力的なものを提案できたらと思う。

**【委員】** 実際に子ども教室を運営していた。ドッジボールや折紙など、子どもは喜んで参加してくれていたが、続いていかなかった。アンケートを取ったりもしたが、最終的には、立ち上げ当初のスタッフが子どもたちにとって必要と判断したことが、今のお母さんたちは必要と思っていないのではという意見をもらった。水谷東地域では子ども教室が立ち上がった時に、地域全体を巻き込んでやろうという方針を立てた。最初は、学校は協力的でなかったが、町会長が呼びかけ、今ではとても協力してくださるようになった。餅つき大会の時など、年に何回かは教員も参加しようと言って活動にも来てくださっており、すごく良い関係で活動できていた。しかしスタッフの代わりが見つからず、学校にも相談の上、今のお母さんたちができる形を模索していくこととなった。他の子ども教室でも子どもたちは本当に楽しんでくれている。しかし例えば泥で汚れると事前に告知していても保護者から苦情が来るなど、理解が得られていないところがある。

**【事務局】** これまで活動を休止した教室は他に鶴瀬小区のわくわくクレインキッズがあるが、休止した理由は水谷東と一緒。クレインキッズでも子どもは楽しんで参加してくれていたし、子どものためには続けたかったが、周りの理解がなかなか得られず、負担が増え休止に至ったと聞いている。

**【委員】** 子どもにまつわる活動は本当に様々なものがある。青少年市民育成会議や育成会など、一つひとつ独立して存在しており、横のつながりが無い。予算の関係で一緒に活動するというのも難しいと聞いている。立ち上げ当

初に関わっていたが、その時は他の団体と共催でお祭りに参加するなど、いい活動ができた。様々なやり方があってよいのでは。

【委員】今のお母さんたちを見ていると、何かイベントなどがあると、そこに子どもを参加させはするが、自分自身が関りを持つということは苦手なように感じる。公民館や交流センターでやっている事業を見てもそう。例えばふじみ野交流センターでは学校が完全週休2日制になったことを契機に、月2回土曜日に子ども対象の事業を行っている。遊びを教えてくれるおにいさんと呼んで、卓球やキッズキッチンなど様々なことをしている。参加率はとても高く、その理由を考えると保護者は参加する必要がないからなのではと思う。ふじみ野小学校区の子ども教室は自由遊びで、大人が見守るという形。見守りの大人の高齢化による人手不足が生じているのであれば、大学生や高校生など近い年代を巻き込んでいければよいのでは。子どもたちも近い年代のおにいさん・おねえさんと遊ぶことができ楽しめるのでは。

【事務局】そういった意見は、以前子ども教室の連絡協議会で出たと聞いている。例えば鶴瀬でも実際に中高生や大学生を呼んだことがあるが、部活や勉強等で忙しく、毎回の参加は難しいという事で継続的に巻込むことができなかったという話だった。

【委員】児童館のボランティア「あそびの夢広げたい」はうまくやっていると聞いている。

【委員】私の地域では子ども和太鼓クラブというのがある。練習の時は保護者は来ないが、発表の時は来る。伝統的なことも遊びの中に入れて良いのではないか。

【議長】事前資料で挙げられた3つの共通課題以外で、先に扱っておいたほうがよいと思うことはあるか。

【事務局】社会的な背景が変化してきたという話があった。背景の変化により今やっている子ども教室ではずれが生じてしまっており、それを正した方が良いのか、本来の形でやっていった方が良いのか意見を聞きたい。

【議長】社会背景の変化という話について、少し前まで子ども教室に関わっていた親の意見を述べる。他の保護者の方を見ていると、子どもが問題を起こしても頭を下げない。親の中でも考え方や感覚に違いがあり、世代間ギャップがある。保護者の世代から人と距離を取りはじめている、そういう社会になってきていると感じる。そこを正そうとしても、今の世代には受け入れられないと考える。

【委員】少年野球でも同じ問題がある。少年野球に加入すると、車の移動やお茶当番など、保護者の方の協力が必要。しかし両親ともに働いており、当番が負担になるので、子どもは望んでいるけど加入させないという話を聞いたことがある。少年野球もあり方を変えていかなければと思うが、難しい。子ども教室も、時代に合わせて変わっていかなければならない。資料を見て思うのは担い手不足であり、協力してくれる大人の継続的な確保をいかに行うかが大きな問題だと思う。

【議長】後継者不足は昔からの課題。断れない人をつなぎとめてという面があったことは否めない。事務局と話し合ったことだが、小学校区を越えた活動に

していくことはできないのか。担い手がいないという問題に終始するのではなく、臨機応変な意見を出していけたら。子どもが楽しむためにはどうしたらよいか、担い手である大人がいない状況下でどうやって子ども教室を運営していくか検討していけたらと思う。

【委員】子ども教室について、今後も継続していくという方向性のもと話し合うのか、より良い形に変えていこうという方向性のもと話し合うのか。

【委員】小学校長として関わっていく中で、面白い経験をしたことがある。子ども教室に参加しないで家に帰り、それから学校に遊び来る子が、子ども教室に参加している子よりも多い。サッカーなど流行りのスポーツをしており、子どものニーズが現れているのかなと思う。子どもは遊びが好きだから場所と友達がいれば来る。そういった子を取り込めると良いのではと思う。また土曜日に活動しているスポーツクラブなど、みんな積極的に参加している。そういったところを参考にできれば活性化につながるのでは。

【委員】子どものニーズに合っていない形になってしまっており、盛り上がらないという面もあるのでは。現代にあった、より良い形を提示していけたら良いのでは。

【委員】連絡協議会の会議録をみていたが、卓球を探しているという教室があった。公民館などで活動しているサークルを取り込んで講師を依頼したらどうか。

【委員】文化協会には踊りの会員がたくさんおり、子ども教室で踊りを教えてもらったことがあるが、子どもたちは楽しんで参加してくれていたと思う。

【事務局】活動の中身が今のニーズに合っているかどうかも重要。今の時代あるべき姿を提言に盛り込んでいただければ。

【委員】これまでの話とは違う観点からの話になるが、みなさんに考えてほしい。みなさんは、「地域」とは何だと考えているか。文科省は「地域の教育力」という言葉を使うが、文科省の言う「地域」とは何を指しているのか。富士見市では各小学校区を地域とみているのか、富士見市全体を地域とみているのか。地域に住んでいる人だけを地域と見るのか、大学生など一時的に住んでいる人も地域と見るのか。今まで当たり前と思っていた「地域」という概念を考え直すところから出発してもよいのでは。また以前、青少年健全育成会についてとても悩んだことがあった。地域で青少年を育てようということで発足した、かなり古い歴史を持った組織であるが、20～30年ほど前から活動が停滞してしまった。大きな理由として考えられるのは、「地域」とイコールだと考えていた町会や民生委員が弱体化していったこと。子どもたちのことなのだから、保護者が関わるべきという事でPTAにその役割を押し付ける方向になった。「地域で」という話であったのが、PTAに移ってしまった訳である。地域での青少年健全育成会という組織が弱体化していった訳である。子ども教室の問題も、子どもを中心に考えようという話が会議冒頭にあったが、もうひとつ、地域とは何かという事も一緒に考えなければいけないのではと思う。

【議長】ニーズに合っていないという点は、4つ目の課題として挙げてよいかと思う。そもそも「地域」とはなにかという点は、5個目の課題として挙げるということでは。

- 【委員】 PTA や学校、町会は組織だが、地域は果たして組織だろうか。
- 【議長】 地域とは組織ではなくコミュニティなのではないかと思う。組織的に集まったのではなく、たまたま一緒になった人たち。
- 【委員】 地域の話で思い出したが、人間地区では規模の小さくなってしまっている市町があるが、地域の教育にとっても熱心。学校は統合され子どもの数も少なく、学校だけで子どもたちを見ていたのでは心配ということで、親だけでなくみんなで支えねばという危機感から出てきている考えなのかと推測するが、コミュニティスクールのことだったかと思う。富士見市でも、子ども教室を始めた頃と比べ今は子どもの人数は減っており、このまま同じような形でやっていったのではダメで、もともとの形を考えたときに、社会教育委員として関わるのであれば、地域という意味合いをもう一度考えて盛り込めればよいのかなと考える。立ち上げの頃公民館に出入りしていたが、水谷では子ども広場ということで話が進んでいったが、他所ではうまく立ち上がらず、保護者会の時に活動という話があったが、今も学校によって活動の内容や開催日は異なるのか。
- 【事務局】 今教室の運営に携わっている方の考え方により異なる。国の事業としてみると地域子ども教室から放課後子供教室へと変化してきている。しかし富士見市では地域で子どもを育てましようという方針で子ども教室を開催している。総合の時間が設けられ生きる力の育成が指導要領に盛り込まれた。そのため、地域の人材から様々なことを学びましようという事で始まったのが地域子ども教室であるわけだが、そういった観点から始まった教室については、様々な体験をさせましよう、自由に遊ばせましようということで活動している。一方で、保護者会時の見守りとして活動しようという考え方の教室もあり、両方やっている教室もある。11小学校区それぞれ地域の考え方が違えば方針も違う。
- 【委員】 学校との関わり方という点、保護者会の時はもちろん学校も協力的だと思うが、それ以外の活動をしているところに問題があるということか。
- 【事務局】 土曜日に活動しているところなどは、今までは施設を問題なく借りられていたのに、先生が変わって借りられなくなってしまったという話を聞いている。
- 【委員】 もともと鶴瀬でやっていた子ども教室は、本来の子ども教室の目的のもとに活動していたのか。
- 【事務局】 鶴瀬は多い時は週2回開催しており、人材バンクに依頼してお琴の体験教室やけん玉大会などを開催していた。地域子ども教室から放課後子供教室へと変化したい例なのではないかと思う。最初は地域で子どもたちいろいろな体験をさせようと活動していたが、一度活動休止となった。再度立ち上げの際、どういう形ならできるかということをお話やPTAの方を交えて協議した時に、以前のような形ではなく保護者会の時になら、ということで始まったと聞いている。
- 【委員】 保護者会時の見守りという形であれば、学校のニーズもある。職員会議の時に活動してもらえると学校としても助かる。
- 【委員】 南畑あそび隊の代表者に話を聞いてみた。南畑では自由遊びをやっている。子どもたちの意向を大切に、子どもたちがやりたい遊びができるよう

活動している。南畑地区は昭和47年頃には600人近く子どもがいたが、今ではかなり減っている。しかし数年前から、私が住んでいる地区に限った話だが、ららぽーとができたためか、住宅が増え、世帯が増えた。年々20人くらい子どもも増えているのではと思う。後継者問題も大変らしいが、そんなに力まず活動している。なにが子どもたちにとって一番大切か、昔の地域と変わってきているのだから、どこまで支えてあげるべきか、子どもたちは何を望んでいるのか、考えていく必要があると思う。

【議長】 考えていく課題として、一つ目、担い手不足と高齢化。二つ目、学校との関わり方。三つ目、保護者の理解。四つ目、子どもや保護者のニーズ。そして五つ目が地域とは、ということでしょうか。

【委員】 課題として入れるのではなく、念頭に置きながら考えていければよいのでは。

【委員】 「地域」というのは様々な捉え方ができる。なので、概念を合わせるのは難しいところがある。課題が明確になればおのずと見えてくるものかと思う。地域で子どもを育てるのだ、という視点で他の課題を考えていければよいのでは。

【議長】 では課題は上記の四つということで、事務局と相談してどこまで宿題とするか調整する。

【委員】 前に社会教育委員会議で、若者はどこにいったのかというテーマで話し合った。その時、他市町村をみると青少年会館などがあるところは事業も活発で、そこで育った若者もそこに活動する場があった。入間地区社会教育委員協議会に出ても、青少年関係の施設を持つ市町は活動が活発な印象。富士見市にはそういった施設はないが、公民館や交流センターで青少年関係の事業を組んでもらいたいという意見が出た。そうやって何年後かには地域子ども教室を担うような若者が育つという事になれば。

【議長】 小学生の時に子ども教室で遊んでも、中高生になって忙しく戻ってこず、とう状況なのかと思う。

【委員】 以前話し合ったことが少しでも活かされれば。

### 3. その他

○特になし

#### 次回会議日程

令和2年度第3回会議

日程：令和2年10月1日（木）午後7時～

場所：中央図書館 視聴覚ホール

### 4. 閉会